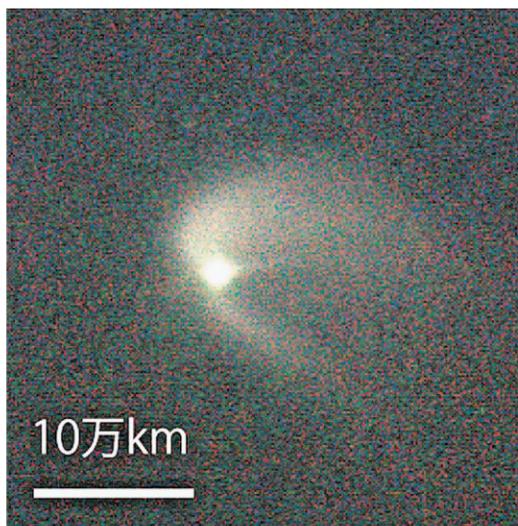


石垣島天文台のむりかぶし望遠鏡で撮影した
小惑星シーラの三つの尾 (国立天文台提供)



研究によると、2010年12月2日午後9時から3日午後7時の間に、直径20~50kmの小惑星がシーラの後方から衝突し、「三つの尾」が生まれた。シーラには直径500kmの800kgのクレーター(星の表面にあるくぼんだ地形)ができる。

シーラのしつぽ 小惑星衝突原因

読んで
学べる
NIE

【石垣】ソウル大学の石黒正晃さんが率いる国際研究チームは、地球上から約4億キロ離れた小惑星シーラに、昨年12月ごろ現れた「三つの尾(チリ雲)」が、小惑星の衝突によって生まれたことを突き止めた。国立天文台が

石垣島天文台も解明に協力

20日発表した。

研究チームは、日本がハワイに設置したすばる望遠鏡や石垣島天文台のむりかぶし望遠鏡で観測し、三つの尾が生まれた原因を突き止めた。

チリ雲を詳しく調べることで、小惑星が衝突した日時や衝突の方向などが分かったのは天文観測史上、初めてのことだ。